小三小だより

３月号　　令和６年２月２９日発行
横浜市立港南台第三小学校 学校だより
電話　８３３―０２５１
ＦＡＸ　８３３－９２０４
https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kohnandai3/

感謝の気持ち

校長　岡部　一郎

今年の冬は、季節外れの暖かさもありましたが、２月の終わりの三連休は、いつもの冬を思わせるような寒さが戻ってきました。風も冷たく外出する気持ちにならなかったのですが、思い切って、自宅の周辺を歩くことにしました。始めのうちは、冬の寒さを感じていましたが、歩くうちに、桜のつぼみが膨らんでいる様子が見られ、春の訪れを感じることができました。いよいよ３月です。学校の中でも小さな春を見つけながら、学習のまとめ、そして進級への準備を進めていきます。

さて、１月に起きた能登半島地震では、多くの方々が被災され、まだ避難生活を続けています。報道などでも被災地の方々の様子が伝えられています。このような災害時は、まず、生命を守ることが大切ですが、避難生活では、水や電気などのライフライン、衣食住などの日常生活に必要な基本的なことが、いかに大切かがわかります。現地の状況が早く回復し、被災された方々が一日でも早く、通常に近い生活ができるよう、私たちにできることを考えていきたいです。

この災害から日常生活にある「あたりまえのことの大切さ」も改めて感じています。今私たちの身の回りにある、水、電気、ガス、スマートフォン、朝・昼・夜の食事、車、電車、バスなどを考えてみますと、ほとんど意識せず、「あたりまえ」のものとして認識しています。しかし、これらには、そこに携わっている方々がいて、私たちが気付かないところで様々な苦労をしながら、「あたりまえ」を維持しています。もしかしたら「あたりまえ」にあることは、人々の支えによって成り立っている、とても「ありがたい」ことであるかもしれません。

私は、市内のあるマンションに住んでいますが、最寄りの駅までは、歩いて２０分ほどで、時々マンションの専用バスを利用しています。１回数十円のチケットで乗れるようになっていますが、バスが到着した際に、降りる人が皆、運転手さんに「ありがとうございました。」と声をかけています。とても温かい気持ちになり、私もやっているのですが、大人の私たちの様子を見て、子どもたちも同様に声をかけていました。その様子を見た時には、すがすがしい気持ちになります。「あたりまえ」のものに、感謝の気持ちを表すこと、そしてその様子を見て感謝の気持ちを分かち合うことが、私たちの心を豊かにしてくれると感じました。

本校の学校教育目標は、「心豊かな子」です。この目標を達成するために、私たちは、「あたりまえ」のことに感謝の気持ちをもち、しっかりと表現することが大切であると考えています。そして、子どもたちにも、このことが伝わるよう声をかけ、一人ひとりが豊かな心をもつ子に育ってほしいと願っています。

保護者の皆様、地域の皆様、一年間、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。学校を支えてくださっている皆様に感謝いたします。